

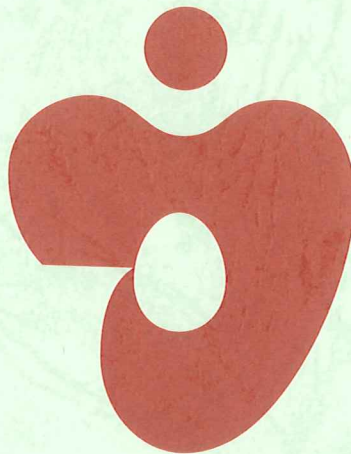
ISSN 1344-7505

九州看護福祉大学紀要

The Journal of Kyushu University of Nursing and Social Welfare

Vol. 6 No. 1

2004



九州看護福祉大学

Kyushu University of Nursing and Social Welfare

巻 頭 言

九州看護福祉大学紀要（第6巻）発刊によせて

諸氏のご投稿と査読のお陰をもちまして、九州看護福祉大学紀要第6巻を編集出版できました。みなさまのご協力に感謝いたしております。

近年、少子高齢化、年金問題、児童虐待、青少年犯罪など社会問題や社会不安が取り沙汰されています。このような現象は心を病む人が増え、彼らを取りまく社会も病んでいるためだと思われれます。看護福祉系の大学はそれらの問題解決を世間から期待されています。私たちは、保健医療職や社会福祉職の専門職者を養成する教育者としてだけでなく、私たち大学人自らも“病んだ人々、社会の病根が何か”“どのようにすれば治るのか”“住み良くするには”を研究する責任が負わされているのではないのでしょうか。看護学領域では個々の視点から、社会福祉学領域では全体の視点から、学際的にそれらの問題点とその改善策を探求することで初めて地域や社会に還元できると考えられます。

開学して6年になり研究の土壌も整いつつあるように思います。講義や実習など仕事量が多いなかで、社会福祉学科研究会や看護学科集談会が定期的で開催されるようになりました。学問的文化的背景を異にする大学人がそこに集い互いに教育と研究について議論する場が持たれるようになりました。そのような環境から探究的 (inquiring) 姿勢、論理的思考 (logical thinking) を育むことを、とくに若い大学人に期待します。そして、もっとも大切なことは研究結果を科学的論文 (scientific articles) にすることです。ノーベル賞作家大江健三郎氏は「日本人の自己表現の文体」と題して、“最近の日本人は、テレビの影響で会話中心の思考が多く論理的に弱くなった”と指摘しています。論理的思考を高めるためには、どのような研究結果でもまずは原稿にするという習慣が必要です。そして、権威のある雑誌に投稿するもよし、紀要に投稿するもよし、兎に角かたちに残すことが重要です。そのために役に立つことになれば紀要を編集する者として幸甚であります。

平成15年4月から大学院が開設され14名の院生1年生が誕生しました。院生の中からの1篇を第6巻に掲載できましたことは、研究者としての彼女の第一歩であり、また本紀要のささやかな一歩として記念すべきことのように思われます。

平成16年3月吉日

九州看護福祉大学紀要編集委員会
委員長 官 澤 文 彦

目 次

巻頭言 九州看護福祉大学紀要 (第6巻) 発刊によせて	官澤 文彦…………… 1
1. 論文	
中国農村部における住民最低生活保障制度の構築と課題	藤原 (王) 文亮…………… 5
介護事故と過失の認定 —高齢者施設における介護事故判例を素材として—	野崎 和義……………21
臨床実習における学生の自覚的疲労症状に関する縦断的研究	松尾 典子……………31
在宅ケアを担う介護者の生活満足度とストレス —Pリクルの解釈学的方法による検証—	官澤 文彦 川西 恭子……………43
明治期の福岡県における産婆教育の実態 —産婆に関する法制, 産婆数の変遷から—	緒方 妙子……………57
The explanatory weakness of power and the open ensemble	Allan J. Sutherland……………71
Effect of alginic acid on toxicity of cadmium in rat primary hepatocyte cultures Takayuki Funakoshi Etsuki Sakaguthi Tosio Morikawa Hideaki Shimada ……87	
テーマとレマの定義と導入—ドイツ語教科書記述に寄せて—	山本 務……………97
2. 研究ノート	
大人との協働による思春期の居場所作りに参加した7人のピアの変化とその要因 久佐賀 真理 宮本 聖子 田上 民子 萩原 ひとみ 與田 千恵子 名原 寿子……………113	
障害児教育政策の史的展開 —韓国の視覚障害児教育と日本との関わりを中心に—	金 蘭九……………127
自閉症児の教育と教室空間の利用実態に関する研究 —最近の情緒障害学級の教育と空間について—	西島 衛治……………141
看護学教育の変化の一考察 —「ライターの原理」からケアリングへ—	立石 和子……………157

西独ヴァイツゼッカー演説による問題提起について

—ドイツの「過去の克服」に関する年代記1985—2003年：（1）1985—89年—

山本 務……………169

3. 事例・実践・調査報告

介護支援専門員の活動状況調査

—ケアプラン作成時の訪問看護選定状況—

吉岡 久美 生野 繁子……………181

学生企画のレクリエーションにおける学習効果への一検討

— 精神看護実習への取り組みを通して —

増田 安代 山村 順子 上田 俊子 月野 三千子 藤本 君代……………191

看護大学における学生の職業領域の同一性形成にむけての教育への検討

—レオ=レオネのペッエッティエーノを教材活用して—

増田 安代……………203

基礎資格別介護支援専門員の活動の状況と研修の課題

—保健・医療職と福祉職の教育背景の違いに焦点をあてて—

徳永 恵美子 生野 繁子 和田 要……………217

精神保健福祉援助実習生支援の在り方についての研究

益満 孝一……………231

4. 展望

看護の本質の実現に向けて

—看護基礎教育に焦点をあてて—

柴田 恵子……………243

5. その他（特許）

抗血液凝固活性を持つオリゴペプチド

船越 崇行

中野 宏俊

溝上 寛……………253

研究報告一覧

……………261

「九州看護福祉大学紀要」投稿規程および執筆要領

……………268

編集後記

……………270

編集後記

第6巻は新しい編集委員で2度目の出版ですが、前巻と比較して編数は20編とほぼ同じですがページ数を減らすことで経費節減することができました。これは皆様に原稿枚数の制限を守っていただいたお陰です。しかし年度内発行は今回も実現できずに皆様にご迷惑をおかけしました。次回からは投稿規定と執筆要領とくに投稿期日を厳守していただけるようお願い致します。

今回からは投稿者氏名を伏せて原稿査読を依頼することにしました。この方法は投稿者からも査読者からも好評で、また、論文審査においても公平性が保たれたと思われまます。査読にあたっては内容を十分に審査していただき、表現方法の訂正までも懇切丁寧に指導していただきました。ご多忙のなか査読にご協力いただきました先生方には、この場を借りて、編集委員会から篤く御礼申し上げます。

(紀要編集委員一同)

平成16年3月

紀要編集委員長 官 澤 文 彦 (看護)
委員 藤 原 文 亮 (社福)
委員 山 本 務 (社福)
委員 久佐賀 真理 (看護)

査読にご協力いただいた先生方のご氏名 (50音順)

赤 星 まゆみ 教授 (社福)	熱 田 一 信 教授 (看護)
安 藤 学 助教授 (社福)	岡 本 陽 子 教授 (看護)
衣 笠 一 茂 助教授 (社福)	後 藤 秀 昭 助教授 (社福)
佐 藤 林 正 教授 (社福)	柴 田 恵 子 助教授 (看護)
生 野 繁 子 教授 (看護)	永 田 俊 明 専任講師 (社福)
名 原 壽 子 教授 (看護)	野 崎 和 義 助教授 (社福)
平 岡 武 久 教授 (看護)	松 本 敬 子 教授 (社福)
道 脇 正 夫 教授 (社福)	山 本 恵 子 専任講師 (看護)
和 田 要 助教授 (社福)	

九州看護福祉大学紀要 第6巻 第1号

The Journal of Kyushu University of Nursing and Social Welfare Vol.6 No. 1

2004年3月

発行者 九州看護福祉大学

Kyushu University of Nursing and Social Welfare

〒865-0062

熊本県玉名市富尾888番地

888 Tomio, Tamana City, Kumamoto Pref.

Japan. Zip 865-0062

T E L 0968(75)1800

F A X 0968(75)1811

紀要編集委員代表 官澤 文彦

印刷所 株式会社 ベストパッケージ

〒864-0025

熊本県荒尾市高浜字前1825-20

T E L 0968(68)7710

F A X 0968(68)7713
